

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270104047
法人名	社会福祉法人 清潮会
事業所名	グループホーム 三重の里
所在地 (電話番号)	長崎県杵臼町1613番地169 (電話) 095-814-1233

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成20年8月25日	評価確定日	平成20年10月17日

## 【情報提供票より】(平成 20年 4月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	6 人	常勤 6人, 非常勤 人, 常勤換算 6人	

### (2) 建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3 階建ての	1 階 ~ 3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

### (4) 利用者の概要

利用者人数	6 名	男性 名	女性 6 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 80.5 歳	最低 68 歳	最高 95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	田尾内科、こうの医院、ひらの歯科クリニック
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の中で高齢者が心豊かに安心して過ごせるように、地域福祉の拠点として法人各施設が運営されており、高齢者介護や認知症の方が、地域で暮らし続けるための支援の必要性を感じてホームが開設された。商店の事務所兼倉庫を改装した3階建てのホームはプランターに季節の花が植えられ、街路樹の緑が木陰を作りご利用者が道路掃除をしたり、近くの商店やコンビニ迄心地良く散歩している。玄関・裏口も交通量の多い主要道路に面しているが、ご利用者の安全確保に留意しながら鍵をかけないケアを実践し、室内の段差は取上げて下肢筋力維持と考えて活用したり、ご利用者・ご家族が安心して生活できるよう話し合ったり、今できる事を常に意識したご利用者中心の取り組みを続けている。職員は業務で失敗した時等、所長に相談したり職員同士で励まし合ったり、職員もご利用者も元気で明るい雰囲気ホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>①支所長に年間の行事予定を教えて頂き公民館祭りや、子供ペーロンの見学に行ったり地域との交流を深めている②所長が手紙を書いたりご利用者が書かれた絵手紙をお送りしている③アンケートの実施や率直なご意見を頂けるよう、行事の後にご家族と話し合いの場を設けた④終末期の方針として医療的なケアが重点的になった時は難しい場合もあるがターミナルケアに対応できる事、母体施設に入所できる事をお伝えしている⑤ご利用者の生活に近い入浴時間を考え、殆ど毎日夕食前に入ってもらっている</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>理事長は評価の目的・活用について理解しており、実務は施設次長・所長に一任し職員への説明は所長がおこなった。各職員が話し合い項目を分担して自己評価をおこない、地域との関わりの難しさを感じており、外部評価が一年に1回の見直しの機会でもあり、更に取り組みしていく事を皆で考える場にもなっている。前回評価結果を基に全職員で話し合い、改善策を検討して計画書を作成し取り組みを続けている。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の開催にあたり市の方が積極的に関わって頂き定期開催され、ご家族の方に会議録をお渡ししたり会議開催の通知を郵送している。リビングに隣接するホールで開催し、ご利用者にお茶をお出して頂いたり日常の生活を見て頂いている。地域の方とホームが深く関わられるよう、支所長が民生委員を紹介して下さったり、地域の行事に参加についてご相談し年間の行事予定を教えて頂き、地域行事に参加できるようになった。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>所長が手紙を書いたりご利用者が書かれた絵手紙をお送りし、ご家族の来訪時に暮らしぶりや健康状態等を報告し、体調の変化や何かある時に電話をしている。ご意見箱の設置や答えやすいような内容で○をつけて頂く様式のアンケートを実施した。ご家族も一箱に楽しい時間を過ごして頂けるようクリスマス会に参加して頂き、行事の後に和気あいあいと話し合いができています。ご意見を頂いた時は会議での報告・対応策の検討や、記録を回覧し職員間で情報を共有している。</p>
重点項目 ③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ご利用者と一緒の子供ペーロン・三重くんち、法人の夏祭りに行つて幼なじみ・親類に出会ったり、図書館で取り寄せて頂いた本や皇室アルバムを見に行ったり、公民館祭りに法人として参加しホームからも手作り作品を出品した。ホーム前の歩道掃除や散歩コースのゴミ拾い、食材が入っていた段ボール箱を近くの野菜屋の回収車までご利用者と一緒を持って行っている。ホーム周辺地域によって受け入れの温度差はあるが、顔馴染みの職員がホームに法人内の異動で来たり、地域の方が寄りやすくなっている。</p>
重点項目 ④	

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念を基に認知症の方が地域で暮らす為に、必要なものは何だろうと考えながら『明るく、楽しく、ゆったり』をホームの目標とした。H.20.4に『心のふれあい、信頼関係、地域を支え地域から支えられる』を地域密着の理念として作り、法人内2か所のグループホームで共有している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	所長は申し送り時に業務の振り返りをしながら、理念に照らし合わせ職員一人ひとりが何をしなければならないのか、ご利用者の思いや立場を考えながら、明るく、楽しく、ゆったりを意識するよう話している。施設次長はケース会議の時に理念を伝えたり、気になる事は個別に話している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ご利用者と一緒に子供ペーロン・三重くんち、法人の夏祭りに行って幼なじみ・親類に出会ったり、図書館で取り寄せて頂いた本や皇室アルバムを見に行ったり、公民館祭りに法人として参加しホームからも手作り作品を出品した。ホーム前の歩道掃除や散歩コースのゴミ拾い、食材が入っていた段ボール箱を近くの野菜屋の回収車までご利用者と一緒に持って行っている。ホーム周辺の地域によって受け入れの温度差はあるが、職員が顔馴染みになり地域の方に寄って頂けるようになった。	○	一年に2回公民館で開催されるフラダンスや、大正琴の演奏会を見に行きたいと考えている。ご利用者に負担にならない見学場所や方法等を、公民館の方と話し合いながら、地域の方と交流する機会が増え、地域の方にホームに寄って頂く事にもつながっていくと考えられる。今後の取り組みに期待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	理事長は評価の目的・活用について理解しており、実務は施設次長・所長に一任し職員への説明は所長がおこなった。各職員が話し合い項目を分担して自己評価をおこない、地域との関わりやの難しさを感じており、外部評価が一年に1回の見直しの機会でもあり、更に取り組んでいく事を皆で考える場にもなっている。前回評価結果を基に全職員で話し合い、改善策を検討して計画書を作成し取り組みを続けている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催や参加者の決定にあたり、市の高齢者支援課の方が積極的に関わってくださり、定期開催できている。ご家族の方に会議の目的をお話しし会議録をお渡ししたり、会議開催の通知を郵送し議題について何かないかを電話でお尋ねしている。リビングに隣接するホールで開催され、ご利用者が準備をされたりお茶をお出ししたり、参加者の方に日常の生活を見て頂いているが、ご利用者が会議に参加する迄には至っていない。	○	運営推進会議参加者の調整がつきにくい部分もあるが、会議の中で消防署の方に救命救急法の勉強会をして頂く等、参加の働きかけを続けていきたいと考えている。ご利用者が会議に参加できる時間や方法についてのご意見をお聞きしたり、ご意見や残された課題について、会議記録を見やすく工夫される等、今後の取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	支所長が地域の方とホームが深く関わられるよう、民生委員の方の紹介等のご尽力を頂いており、申請手続きや制度に関する相談等で市の窓口にお伺いしている。支所へ年に数回発行される広報誌をお送りし窓口に置いて頂いたり、ホーム行事のご案内や取り組みについてお伝えしている。支所長に地域の行事に参加できないかご相談し、年間の行事予定を教えてください、地域行事に参加している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	請求書・領収書と一緒に所長が手紙を書いてお送りする時に、ご家族にお知らせして欲しい事がないかご利用者にお聞きしたり、ご自分が書かれた絵手紙をお送りしている。ご家族の来訪時に暮らしぶりや健康状態等を職員が報告し、体調の変化や買い物のご希望等、何かある時に電話をしたりしている。職員の異動についてはご家族の来訪時にお伝えしたり、広報誌でお知らせしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置・ご家族や運営推進会議の参加者に、答えやすいような内容で○をつけて頂く様式の、アンケートを実施したが「良くしてもらっている」という答えが多い。ご家族も一緒に楽しい時間を過ごして頂きたい思いがあり、クリスマス会等の行事の参加をお願いし、行事の後に話し合いの場を設け、和気合い合いと話はできています。ご意見を頂いた時は会議での報告・対応策の検討や、記録を回覧し職員間で情報を共有している。	○	ご家族の率直なご意見を頂けるように、具体的に書きやすいアンケートの書式や、内容を検討したいと考えている。行事後の話し合いについて、ご家族がどのように思っているのかお聞きしながら、定着化に向けて取り組まれる事に期待していきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人員・勤務体制に応じて法人内での定期的な異動や、職員の希望に応じて異動があり、調理専門職員の配置や休みの希望に極力応じる等、勤務条件の改善に努めている。ホーム内で食事会をしたり、法人全体で忘年会・行事の打ち上げ等、職員親睦の場を設けている。新規職員に所長が理念や全体的な事を話し、ご利用者についての情報を担当職員がおこない、その日毎に個別指導している。職員全体で新人を育てる方針で、人に教える・伝える事で教える側の成長になり、ケアの標準化や振り返りにもなっている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で毎月定期的に内部研修が行われ、必要な外部研修の参加も理事長は積極的に考えており、人選については現場に一任されている。認知症介護実践者研修や自治体主催の研修会に参加し、内部研修の時に伝達して研修内容を共有している。法人全体で個別に年間目標・到達目標を提示しており、グループホームを中心とした研修で指導者育成や、各職員の能力を伸ばしていけるようになってきている段階である。自発的な経年別の目標設定の実践に向けて、取り組みを始めている。	○	個別の到達目標を提示するだけでなく、各職員の立場・経験・習熟度等に応じて段階的に力をつけていけるよう、職員毎の育成計画の作成に期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	理事長は同業者との交流を積極的に勧めており、ホームとしても必要性は認識しているが、他事業所と交流する機会は少ない。所長は知っているグループホームや施設を見学し、電話やメールで日常的に情報交換・相談をおこない、ケアの取り組みを再認識したり自信につながっている。	○	職員が相互訪問・見学する機会を作りたいと考えている。職員の視点で他事業所を見る事も必要で、今後の取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご自宅から入居される時は所長がお伺いしたり、法人施設から入居する時は職員が情報収集する事で、馴染みの関係ができ環境調整やコミュニケーションが早期に築けている。入居後は家族の方に頻りに来て頂いたり、行きつけの美容室やなじみの店に買い物に行ったり、徐々に馴染んでいけるよう支援している。ご利用者の状況を観察してアセスメント出来る状況になるようトレーニングしている段階である。今後、疾患についての知識やケアに対する認識を深めて、職員も面接ができるようになってきている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者に旬の食材を使った料理を教えて頂いたり、習いながら梅干しと一緒に漬けたりしている。お茶の間を利用したり家庭的な雰囲気の中で生活をしながら、ご利用者ができることをして頂けるよう意識している。職員の夜勤明けに「昨日寝たらんもんね、大丈夫」と、ご利用者に声をかけて頂き疲れが吹き飛んだり、仕事の悩みが行動に出ている時があり、自分では気づかない所で人生の大先輩に支えられている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者お一人ひとりの思い・希望・意向を把握できており、意向を表明されない方についても生活歴・習慣等をできる限り把握し、行動・表情から思いを汲み取ったり背景を推察している。母の日に職員が「三重の里の娘」として家族役割の一部を担って、ご利用者お一人ひとりにカーネーションをプレゼントした。経済的な面で福祉との連携や後見人と相談しながら、ご家族に負担をかけないよう配慮しながら、ご本人の気持ちをお伝えする等、家族関係が途絶えないような関わりを支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	『その人らしく暮らし続ける』為の目標は、介護者の視点になっているが『地域で暮らす』視点は当たり前の事として、全てのご利用者の計画の基本になっている。行動障害を表す言葉や専門用語を避け、ケアの方法・留意点を統一する為現在行っているケアや個別に対応が必要な部分は計画に記載している。計画作成時に医師から助言を頂き計画に反映させ、ご家族と一緒に話し合いをしているが「おまかせします」と言われる事もある。	○	ご利用者お一人ひとりの状況・思い・生活習慣・好み等を踏まえた、個別の目標を記載する事で『ご利用者自身の計画』となり、ご家族にとってもより詳しい生活状況が解り、ご意見や気付きが言いやすくなると考えられ、今後の取り組みに期待していきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全ご利用者について毎月のケース会議で検討し、3ヶ月毎のモニタリング・6ヶ月毎に計画評価をおこない、状態変化等の必要に応じて臨機応変に計画を変更している。実施したケアを申し送りの中で検討して、評価し計画変更結び付けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の定期的な往診、夜間も連絡・相談できる体制で、夜勤者が判断して医師に状態報告して随時往診して頂ける。何かある時は所長に電話で相談したり、いつでも対応できる状況で、ご利用者が入院された時はホームでの生活状況等の情報提供や、必要な情報交換して早期退院に結び付けている。行きつけの美容院や洋服を買いに行ったり、場所によってはお墓参り等にお連れする事もある。外泊準備や薬の準備ケアの注意点を書いてお渡ししている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご希望の医療機関をお聞きし、同意・納得の上で協力医療機関で受療されたり、以前からのかかりつけ医で受療される方についても、日頃の生活状況の記録を見て頂き医師から助言を頂いたり、症状に応じて専門医師を紹介して頂いている。職員が通院介助をおこなうようにしているが、個別のかかりつけ医についてはご家族にお願いしており、受診結果は変化がない場合も速やかに報告し、ご家族だけで通院された時も受診結果も把握できている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療的なケアが重点的になった時は、ホームでの生活が難しい場合もあるが、ターミナルケアに対応できる事をお伝えし、ホーム内で対応できる範囲について医師や職員と話し合い、ほぼ全ご利用者・ご家族の意向は把握できている。ご利用者にとって生活しやすい場所を中心に考えて、ご家族と話し合いながら母体施設に入所できる事をお伝えしたり、ご利用者・ご家族が安心して生活できる事を考えて対応している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「○○ちゃん」やご希望により苗字でお呼びしたり、ご利用者が使い慣れた方言を使う時も、目上の方に対する尊敬の念を持って接している。換気の為に居室ドアを開けているが、好みに応じて対応し入室時は声をかけている。法人で“身体拘束委員会”を設置し、拘束に当たる言葉を“言葉集”にしてマニュアルを作り、個人毎に携帯し常に意識し注意合っている。ご利用者の個人記録は鍵のかかる場所に保管し、個人情報に触れる話を職場外でしない等、個人情報の漏洩防止を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食事や掃除の時にご希望をお聞きし対応が難しい時は、時間や日を変えたりできるだけご希望に添えるようにしている。ご利用者と一緒に午後から散歩に行ったり、毎日母体施設へゴミ捨てに行く時間を利用してドライブに出掛けている。ご希望を表わされない時も生活リズムが取れるよう表情を見ながら声をかけたり、生活習慣やご家族からお聞きして、書字や手作業等のできる事をして頂いている。ご利用者がしたい事をできるだけご希望に沿ってできるよう、業務を調整しながら対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と一緒に料理の本を見ながら献立を決め、食べたい物をお聞きして足りない食材の買い出し、味見や盛り付け、食器に配膳・下膳、食器洗いや食器拭き・片付け、テーブル拭き等をして頂いている。職員も一緒に食卓につき楽しい雰囲気を作ったり、ブレンダーで育てたナス・トマト・きゅうり等の旬の野菜や、ちゃんぽん・皿うどん・豚角煮等の郷土料理を採り入れている。弁当を作ってドライブに行ったり、室内でソーメン流しやペランダで昼食を食べたり、美味しい物を楽しく食べる工夫をしている。	○	調理については危険な部分もあるが、包丁を使ったりしていききたいの思いがあり、ご利用者の力が発揮出来るような支援に期待していきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご利用者の生活に近い入浴時間を考え、夕食前に殆ど毎日入って頂いているが、時間帯によってはシャワー・部分浴で対応している。体調に無理のない範囲で入っている時間・湯温や順番、洗顔フォーム・入浴剤の好みや、お一人ずつの入浴やご希望により同姓介助にする等の個別対応をしている。本来、風呂好きだった方が失禁を機に入浴を嫌がられ、声かけの時に「お手伝いさせてください」と関わる事で、入浴して頂き「風呂が一番いい、気持ちよか」と言われるようになった。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の行動を見てできる部分を見つけながら、洗濯物干しもしわを伸ばす・ハンガーにかける・外に干す・指示をする等の役割が自然とできている。お米を研いで頂いたり居室の掃除や畳を拭いたり、お経を読まれる方もおられ時間に配慮している。毎月開かれる絵手紙教室に参加されご家族に出される等、今出来ることをさらに発展させ、違う視点で見てできる事が増やせるよう関わりを続けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	母体施設へ毎日ゴミ捨てと一緒に行き、ご利用者は施設の犬と遊んだり、行きつけの店や近くのスーパーに買い物に行っている。毎日外を歩かれる方やご利用者のご希望をお聞きしながら、気分転換・五感刺激の為に戸外で過ごす機会を、積極的に作っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	19:30～7:30迄の防犯上の施錠以外は行っておらず、ご利用者毎の落ち着かなくなる時間帯・傾向・原因・行動をしっかり把握している。職員が作業する場所や立つ向きを工夫し声を掛け合ったり、近所の方にご利用者がお一人で出掛けた時に、連絡して頂くようお願いし、ガソリンスタンドの方が引き止めてくださっていたり、電話で知らせて頂ける。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や夜間の災害発生を想定して毎月、一部職員・ご利用者と一緒に避難訓練を実施している。消防署に参加をお願いしているが、日程が合わず参加には至っておらず、ご家族・地域の方にもお知らせし災害時の協力依頼をしている。災害発生時の備品として特別な準備として考えていないが、衛生材料は常に準備しており、日常からペットボトルに白湯を準備したり、果物の缶詰・菓子類の常備はある。	○	消防署の方に避難訓練に参加して頂けるよう、繰り返しお願いに行くと共に、運営推進会議で地域の方やご家族にも参加を呼び掛けたり、実践的な訓練について検討していきたい。災害時の備蓄についても必要物品・備蓄量等、法人と話し合い準備していきたいとの思いがあり、取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の好みに合わせて食材・調理法・味付けを変えたり、御飯にかけずくに別皿に盛ったり、おやつや飲み物を選べるようにしている。食事・飲水量を記録し、定期的な体重測定・血液検査結果により医師からの助言、糖尿病食等について法人施設の栄養士の指導、書籍を見ながら献立を作成し、提供した食事の記録を栄養士に毎月チェックしてもらっている。飲水量が少ない方にお茶菓子と一緒にお出しして、水分摂取を促して必要量の確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事務所を改装した造りで1階フロアに段差があるが、ご利用者の見守り・声かけしながら、ご本人も注意して上り下りされADLの維持に活用できている。街路樹の緑が映えるフロアは、レクリエーションの写真・絵手紙を貼り季節の花が活けられ、柔らかな色合いのカーテン・蛍光灯が明るさの中に寛げる空間となっている。室内の温度調整や空気の濃みがないよう配慮し、リラックス効果・消臭やご利用者の状況に合わせてアロマオイルを使用している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の好みに合わせてカーテンの色を選んで頂いたり、使い慣れた筆筒を持って来て頂き、ご家族と共に相談しながら配置している。ご家族の写真や花を飾ったり、日めくりカレンダーを持って来られたり、畳の部屋のご希望に対応したり、居心地良く過ごせるよう工夫している。		